

## 第 1 回高知県「県政運営指針」検証委員会（要旨）

(令和元年 12 月 10 日 15:00~17:00)

### 【委員からの主な意見】

#### (議題 1) 県政運営指針の取組状況について

- 県職員の仕事に取り組む姿勢、原理原則を定めた「県政運営指針」を検証するためのアンケートとして、回答率が 53.8%は低い。回答率を上げる努力と指針の趣旨を意識させる工夫を。
- 全国的な視点については、「地域支援企画員」など全国で真似されるような取組があることを庁内にフィードバックしていくといいのではないかと。
- 悪い情報を上司に上げることが徹底させるには、常に上司が部下に声掛けをするなど、職場の環境づくりが重要。

#### (議題 2) 県政運営指針の改定に向けた取組について

##### ①6つの柱について

- 働き方改革は民間と同じ考え方で入れていくべき。
- デジタルファーストはぜひ。RPAの開発など、どの自治体も検討しているので、連携して進めたほうが予算的にも業務的にも効率的。
- デジタル技術の活用は、地方にこそチャンスがある。高知県こそ進めていくべき。

##### ②職員体制について

- 業務については、捨てる勇気が必要。
- 民間や市町村との連携も進んでいるが、県庁の仕事としてどんどん増えており、民間や市町村に返すことも必要。線引きは難しいが、整理しないと仕事は減らない。
- 働き方改革を進める中で、時間外勤務について管理職にしわ寄せがきているのではないかと。
- 職員体制(3,300人体制)について、どれくらいが適当な規模なのか、何を物差しで見たらいいかわからない。時間外勤務は1つの指標ではあるけれど、それだけではない。
- 「職員の個性の多様性」を前提とした「適材適所」により、県庁全体として最高のパフォーマンスを発揮できる体制を。

- 再雇用のOBを活用して若手職員の育成に取り組むべき。
- やみくもにアウトソーシングをするよりは、OB職員の活用の検討を。
- ICTの関係は、若手職員より年齢が上の方(40～50 歳台)に対する再教育が大事。それにより業務量も減らせられる。
- 人口が減る中で仕事は複雑化しており、ICTを導入し、効率化を進めることが重要。楽をしながら高度な仕事をする効率化を。
- TV会議の活用で移動時間の縮減(時間の効率化)が図れる。地域支援企画員とも頻繁なコミュニケーションが可能。

### ③職員が常に意識・確認できる方策・仕組みについて

- 県庁に社訓のようなものはあるか。毎日見させられると意識する。
- 名刺の裏に書いてある例がある。名刺交換したときに相手に言われてハッとすることがある。